

『パン屋、ジビエ料理に挑戦!!(3)』

文 木村安兵衛

text by Yasube Kimura

10 月1日釧路地方を中心とした北海道の多くの地区で狩猟が解禁されました。

まずは鉄砲を持って飛行機に乗るところから始まります。普段飛行機に搭乗する際に「以下の物はお持ち込みではありませんね？」とライターや花火、スプレー類を確認されています。しかし今回はそんな生易しい物ではありません。散弾銃に実弾を持ち込むのです。周囲の警官にあらぬ疑いを掛けられたらどうしよう。途中で悪い輩によってこの物騒な道具を奪われたらどうしよう。などと周囲を見る目も厳しくなってきました。

でも航空会社のカウンターに着き事情を説明するとあつけないほど簡単に手続きは終了していきます。逆に「新人研修の良いケーススタディーになりました」ぐらいの事を言われてしまう程度であります。

翌朝、4時に車を走らせて日の出前に今回お世話になる狩猟会社に到着します。この狩猟会社は弊社がいつも扱う蝦夷ジカやヒグマの肉や加工品を仕入れさせて頂いている所でもあります。普通感覚でいうと取引先企業の工場

見学なのでしようが、今回はマイ鉄砲持ち込みというまことに物騒ないでたちによる見学会になりました。

車に乗り込みシカの出そうな林道や牧草地を流してみます。狩猟解禁日なのでシカも油断しているだろうと期待していたのとは裏腹にシカは見当たりません。どうも解禁日前日まで有害鳥獣駆除によってシカをいじめていた(現地での言い回し)為に警戒心が強くなっているとの事でした。

しかも途中で気付いたのですが、牧草地はテニスコートを開くようなフェンスに囲われておりました。この事によりシカの通行が妨げられてしまっているためにフェンスの右側と左側のシカが交配できなくなってしまうという事もわかってきました。この事によってもシカの生息数が少なくなっていることが分かります。

北海道の猟師達はよく山のシカ、牧草地のシカという表現をします。フェンスによって分断されたシカの区別なのでしよう。

山のシカが小さく痩せているのに対して牧草地のシカは大きくなっている。これは食べているエサが牧草のほう

が栄養たっぷりなせいなのでしょう。シカの人生にもいろいろあり、リスクを取って美味しい牧草地を選ぶシカ、安全を取って山に残り痩せながらも自由を満喫するシカがいるようでした。まるで人間の「就職どうする？」みたいな会話がなされていたのかなどと想像してしまいます。

まさにパンビのような小鹿が牧草を食んでいる場面に遭遇しました。今までは可愛いわね等と言って微笑んでいたのですが、今回は少しばかり状況が違います。鉄砲を持って車から飛び降りるのであります。

Profile

1969年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業後、千代田生命保険相互会社に入社。その後アメリカで唯一のFDA(米国食品医薬品局)研究機関である米国立製パン研究所へ留学、ベーキングサイエンスを研究する。ニューヨーク、フランスにて修業を積んだ後、その腕前と経営センスを見込まれ、エリック・カイザーの在日パートナーとして、2000年に株式会社ブランジェリーエリックカイザージャパンを設立。2001年メゾンカイザー 1号店として東京・高輪に店舗をオープンし、2017年現在29店舗を数える。

